

テキスト 出エジプト記 3章1～22節

神が地上をご覧になり人間の苦しむ姿を認められる時、神は人間を通して救いの御業を始められる。「モーセ、モーセ」と二度呼ぶ声が燃える柴から聞かれたとき、神の人はその救いの働きに召されていく。「自分ではない」とモーセが必死に抵抗する様子から知らされるのは、神が人を召されるのは本人の自覚や自主性がその役割を引き受ける第一要因ではないことである。神がモーセに現れた。そして抗うことのできない言葉に促されて、自分を無にして砂漠から人々の住まう所に出て行った。「わたしは必ずあなたと共にいる」との約束が、かつて族長たちに語られたのと同様モーセにも告げられている。その確約を得て「わたしは、今、イスラエルの人々のところに参ります」との応答が導かれる。

モーセが向かうエジプトという「この世」は、文明の力をもって暴虐を尽くすファラオの王国、罪の極まった人間世界のモデルだといえる。もっと深刻なのは、イスラエルもまた神の僕を喜んで受け入れるほど信仰に生きてはいない現実である。彼らは自分たちが置かれた苦難に打ちひしがれて叫ぶが、神の名を呼ぶことすらできない。そんな場所へと神はモーセを派遣し、彼は神の言葉を語らなくてはならない。モーセが繰り返し神の召しを拒絶するのも、その困難、否、不可能が分かるからである。あらゆる不安を神の前に持ち出し、自分が神の命令に耐え切れないと己が弱さを認めざるを得ない。かつてのエジプトの王子は、今や身も心も、沙漠で羊を飼う一人の無力な人間に過ぎない。

しかし、神の救いの道筋がこうして整えられる。自分の力で救いをもたらそうという自負心はモーセにはない。モーセが訴える不安はすべて神が引き受けられる。しるしとなる杖も、代弁者となる兄アロンも、必要なものはすべて神が用意される。あとは神に身を委ねて自分を空にしたまま、エジプトへ出て行けばよい。

このとき神は、モーセにご自身の名を顕された。

「主（YHWH—アドナイと読む）」がそれである。ヘブライ語の四文字で表されるその名は、今では誰も本当の呼び方を知らないが、意味するところは「わたしはある」という神の存在そのものである。この謎めいた名は、「わたしは在りたいように在る」「わたしはいたいと思うところにいる」という歴史に働く神の自由をも示す。モーセはこの名を委ねられて、今、信仰のない世界へ送られ、自らを神の子と称するファラオの前で、「ある」というお方の証言をせねばならない。モーセがそう主張するのではない。「わたしはある」とはっきりと語られる神御自身がモーセを通して証しされる。そして、未だ神の名を呼ぶことを知らないイスラエルの民に向かい、「わたしはある」と宣言される方の言葉を伝え、彼らがその名において神を礼拝するようになることが、これからのモーセが生きる意味となる。

神に召された信仰者は誰しもモーセの姿に自らの召命を見る。神が人を御自身の働きへと召されるとき、それは抗うことができない。神が「ある」ということを本当に知るとき、その言葉には逆らえない。モーセが試みた反抗は、己を捨てるための試みであった。人の思いから来る疑いや不安は、神の御存在の確かさの前には根拠を失う。御言葉の宣教へと人が召されるとき、自分の力を信じることなどできない。罪人が悔い改める出来事は、杖が蛇に変わったり、皮膚病がきれいに治ったりする以上の奇跡に相違ない。主イエスはこれを「ラクダが針の穴を通る方が易しい」と言われた。宣教への召命は、モーセのように一介の羊飼いが召されるのと同じである。「人にはできないが、神にはできる」ことを信じて、ただ神の言葉の力に頼って、その働きに召されるだけである。信じる者には、神の名が委ねられており、神は信仰者の生涯においてご自身の存在を訴えておられる。神を信じる者たちの人生は、いつでもその名を帯びている。

(牧野信成)

テキスト 出エジプト記 3章1～22節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問7, 8

〔単元のねらい〕

『子どもカテキズム』問7は、神さまは「永遠で、変わらないお方です」と告白する。問8には、「生きておられるまことの神さまです」とある。聖書の神は契約の神であり、真実で変わらないお方、生きて働かれるお方である。主なる神は、モーセを召し出して、出エジプトのわざへと導いてくださった。イスラエルの民の贖いのみわざを成し遂げてくださった。今も、主なる神のわたしたちへの愛は変わらない。契約に対する真実も変わらない。神は生きて働いておられる。それゆえに、神は確かにわたしたちを救いの恵みに入れてくださる。神さまを信頼することへと子どもたちを招きたい。そして、わたしたちも神さまに真実をもって応えて歩みたい。なお、聖書朗読としては、1～10節くらいまでが適切であろう。

「神さまの愛は変わらない」

みんなは、お友だちやおうちの人と約束をしたことがありますか。たぶん、あるでしょう。いろいろな約束をしたことがあるでしょう。いついつ一緒に遊ぼうね。そう約束して、約束を守ることができたでしょうか。あと一時間遊んだら、お片付けして勉強する。そう約束して、守れたでしょうか。守れたこともあるし、守れなかったこともある。そうですね。わたしは、子どもたちといついつ一緒に遊べるよ、そう約束していて、忘れてしまうことがありました。本当にごめんなさい。

約束は、きちんと守らなくてはけません。けれども、わたしたちは、守れないことがある。約束していたことを忘れてしまうことがあります。人間は、約束をきちんと守ることができず、人を傷つけたり、悲しませたりしてしまいます。けれども、神さまは、約束を忘れることはありません。約束をいつもおぼえていて、必ずそのとおりにしてくださるお方です。

神さまの不思議な導きによって自ら引き上げられたモーセは、おそらく三年ほどお父さんお母さんのもとで養われ、その後、エジプトの王女に引き取られて、エジプト人として育てられました。モーセは成長して、おとなになり、やがてエジプ

トからも離れて生活することになりました。このとき、ミディアンという地方に住んで、羊の群れを飼い、羊を育てる仕事をしていました。

ある日のこと、モーセが羊の群れを連れて荒れ野に出かけていたとき、とても驚くことが起こりました。荒れ野の中の所々に柴の木が生えていました。その柴の木の一つが突然燃え上がりました。炎が上がったのです。空気が乾燥しているから、自然に火が起こったのか、モーセさんはそう思ったかもしれませんが。ところが、その柴は、燃えているのに、燃え尽きません。赤く燃えているのに、柴の木そのものはぜんぜん燃えていません。いったいどういうことだろうか。そう思ったモーセは、柴の木に近づきました。

すると、その柴の木のほうから声がしました。「モーセよ、モーセよ」。モーセはとっさに答えました。「はい」。声が続きました。「ここに近づいてはならない。足から履き物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから」。さらに声が続きます。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」。モーセは気がつきました。ああ、神さまが声をかけてくださったのだ。柴が燃えていたのは、神さまの御使いがそこにおられたからだ。モー

セは、神さまを畏れて、あわてて顔を覆い、ひれ伏しました。

神さまはおっしゃいました。「わたしは、あなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。わたしは、エジプトにいるイスラエルの人びとが苦しんで生活しているのを知っている。わたしは、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに、カナンの地を与えると約束したことをおぼえている。今、わたしは、エジプト人の手からあなたたちを救い出し、その約束の地、すばらしい土地に導き出す。イスラエルの人びとが苦しんでいる声が聞こえる。今、行きなさい。わたしは、あなたをエジプトの王さまのところに遣わす。わたしの民イスラエルの人びとをエジプトから連れ出さない」。

驚きましたか。柴の木が燃えだして、けれども、燃え尽きない。それはもちろん驚きです。けれども、もっと驚くべきことがあります。神さまが、300年以上、いや400年位も昔かもしれません、それほど昔の約束を忘れることがなかったことです。神さまは、モーセの先祖であるアブラハム、イサク、ヤコブへの約束を忘れることなく、今このとき、それを実行しようとしておられるのです。神さまは、そのように、変わらないお方です。アブラハムを愛して、イサクを愛して、ヨセフを愛して、今もモーセを愛して、イスラエルの人びとを愛しておられます。その愛が変わらないから、モーセに語りかけて、これからイスラエルの人びとを導き出すとおっしゃっておられます。

このイスラエルの人びとは、主イエスさまに結ばれて教会の枝とされているわたしたちのことでもあります。主なる神さまは、わたしたちのことも愛して、わたしたちをも救い出してくださる、力強く生きて働いてくださるお方です。神さまは、わたしたちを愛して救い出すと約束されました。そのことを必ず成し遂げてくださるお方なのです。こういう神さまがおられて、神さまを信じることができるとは、何と幸いなことでしょうか。

そして、変わらない、真実な神さまを信じて、わたしたちも神さまに应えて、真実に生きることができるよう、まっすぐに生きることができるように、造り変えられるのです。

神さまが突然現れて、「あなたをエジプトに遣わす」と言われて、モーセは戸惑いました。うろたえました。いったいどういうことでしょうか。自分に何ができるでしょうか。とくに、実は、モーセはエジプトの王さまから逃げていたのです。王女の子どもとして育てられたのですが、王さまのところから逃げ出して、ミディアンに来ていた。ですから、エジプトに戻るなどとてもない。そして、エジプトの王女の家でぬくぬくと育った自分を、イスラエルの人びとがどうして指導者として受け入れてくれるだろうか。モーセは、いくつもの理由をあげて、神さまに反対しました。

神さまは、そんなふうにして逃げ出してきて、モーセの心が傷ついていることをご存じでした。そのため、生きて働いておられる神、力強いお方である神ご自身がいつも一緒にいてくださると約束されました。「わたしは必ずあなたと共にいる」。そうおっしゃって、モーセを力づけられました。

神さまは、ご自身の御言葉を与えて、わたしたちを力づけてくださいます。確かに一緒にいて、力を与えてくださいます。モーセは、確かに神さまと一緒におられ、神さまから力を与えられました。神さまは、モーセを助ける人として、兄であるアロンも備えておられました。そのような助けと励ましがあり、イスラエルの人たちは、神さまがモーセに告げられた御言葉を聞いて、神さまの約束を思い出し、信じることへと導かれました。イスラエルの人びとは、モーセを指導者として受け入れ、出エジプトへと備えたのです。

神さまは変わらないお方であり、生きて働いておられます。わたしたちを愛して、わたしたちを救い出す、その約束に忠実です。その神さまに信頼して、わたしたちも、神さまに真実に应えて生きていきましょう。

(望月 信)

〔今週の暗唱聖句〕 マラキ書 3章6節前半

まことに、主であるわたしは変わることはない。

〈ねらい〉

必要なものはすべて神さまが用意してくださるから、大胆に神さまのことをお話しできるように。

〈暗唱聖句〉

「わたし必ずあなたと共にいる」。

〈展開例〉

①長い間、イスラエル人たちは奴隷となって苦しんでいました。神さまはその叫びを聞き、御心に留められていました。そして大きくなったモーセさんにいよいよ声をかけられます。

②ある日、モーセが荒れ野の奥へ羊を追って入っていくと、柴が燃えているのに気がつきました。「あれ、火は燃えているのに、柴は燃え尽きない。不思議だな」。

③すると、「モーセよ、モーセよ」と天から声が聞こえました。彼が「はい」と答えると、「私はあなたの父の神である。私はエジプトで苦しむイスラエル人を見、叫びを聞いた。そこで、わたしはあなた王のもとに遣わして、イスラエルの人をエジプトから連れ出す」。

④モーセはビックリしました。そしてすぐに言いました。「私にはそんな力はありません。私には無理です」。しかし神さまは言われます。「わたしは必ずあなたと共にいる」。

⑤でもモーセは自信がなくて言いました。「神さまはどなただと聞かれたら答えられません」。しかし神さまは言われます。「わたしはあ

いうものだ。そう答えなさい」。

⑥でもモーセは心配して言いました。「私が神さまと一緒にいることは誰にも見えません」。しかし神さまは言われます。「杖を蛇にかえてあらわしなさい」。

⑦それでもモーセは恐れて言いました。「わたしは口下手でうまく話しができません。誰か他の人にしてください」。

⑧さすがに神さまは怒って言われます。「アロンを一緒に連れて行きなさい。もう言い訳はよい。必要なものはすべてわたしが用意する。だからあなたは杖を持って、アロンと一緒に王の前に行きなさい」。

⑨モーセさんは行くことをとても怖がっていましたが、それが神さまの御心であることがはっきり分かりました。そしてアロンと杖を持って出かけていきました。もう言い訳ばかりのモーセではありません。神さまから送られた者として、堂々と王さまの前に立ち、神さまの言葉を語りました。

〈お祈り〉

いつも必ずわたしたちと共にいてくださる神さま。あなたは、神さまのお働きができるように、すべて準備してくださっていることをモーセさんを通して知りました。だからわたしたちも神さまのお働きができるように力を与えて、周りのお友達にも神さまのことをお話しできるようにしてください。アーメン。



〈ねらい〉

神様はいつも変わらないお方であり、お約束を守られる方であることを知る。

〈はじめに〉

今日も変わらず、日曜学校に神様が一人ひとりの子どもを招いてくださいました。招きに応じてくることができた一人ひとりの子どもを温かく迎えましょう。このクラスの部屋に入って来る子どもたちの表情はいかがでしょう。子どもたちの生活の様子は見えますか。子どもたちの祈りの課題はないでしょうか。子どもたちの祈りの交わりも大切にしたいものです。

〈御言葉に聴きましょう〉

- ①モーセは、神の山に行きました。この山は何と言いますか。
- ②ホレブの山に来た時、モーセは何を見ましたか。
- ③柴の間から、「モーセよ、モーセよ」という声を聞きました。だれの声ですか。

〈展開例〉

王女に助けられ育ったモーセは、大きくなって、将来の王様になるための勉強を一生懸命しました。そして多くの人から尊敬される大人として成長しました。でも、モーセは自分と同じイスラエル人が、奴隷として毎日毎日、しんどい苦しい仕事をしている様子を見ていましたから、心がいつも悲しかったのです。モーセは、このエジプトからイスラエル人を助ける大きな仕事が与えられて

いることを知っていました。

ある日、モーセはいじめられているイスラエル人を見て、そのいじめたエジプト人を殺してしまいました。それを知った王様はカンカンに怒ったので、モーセはミディアンという所に逃げて行きました。その時モーセは40歳でした。モーセは羊のお世話をするお仕事をしてお過ごしました。今までとは全く違うお仕事ですね。

ある日、モーセは、ホレブという山に来ました。そこに不思議な火が燃えているのに、葉っぱや枝はなくなりません。そして火の中から、神様の声がして「モーセよ、モーセよ、ここに近づいてはいけません。履物を脱ぎなさい。ここは聖なる土地です」と言われました。また「私は、エジプトにいるイスラエル人が苦しんでいるのをよく知っています。私はあの人たちを救い出します。今、行きなさい！王様の所に行って、イスラエル人を連れ出すと言いなさい」と言われました。

モーセはびっくりしました。「どうしてそんなことが私にできるのでしょうか」と言いましたが、神様は「私は必ず、あなたと共にいます。必ずイスラエル人をエジプトから救い出します」と言われました。モーセは本当に神様から大きな力が与えられました。

モーセと共に居てくださった神様は、今日も明日も私たちと共にいてくださるのです。

〈お祈り〉

神様、どんな時も私たちと一緒にいてくださりありがとうございます。変わらない愛をもって私たちを愛してください、ありがとうございます。



〈ねらい〉

「単元のねらい」に従って、「聖書の神は契約の神であり、真実で変わらないお方、生きて働かれるお方である」ことを確認したい。

〈展開例〉

「あなたこそ、主なる神。アブラムを選んでカルデアのウルから導き出し／名をアブラハムとされた。あなたに対して忠実なその心を認め／彼と契約を結び／子孫に土地を与えると約束された。カナン人、ヘト人、アモリ人／ペリジ人、エブス人、ギルガシ人の土地を。あなたは約束を果たされた。まことにあなたは正しい方。

わたしたちの先祖がエジプトで苦しんでいるのを見／葦の海で叫び声をあげるのを聞き ファラオとその家来／その国民すべてに対して／あなたは数々の不思議と奇跡を行われた。彼らがわたしたちの先祖に対して／傲慢にふるまったことを／まことにあなたは知っておられた。こうしてかえられたあなたの名声は／今日も衰えることを知らない」（ネヘミヤ記9:7～10）。

イスラエルの人々の苦しみをほうっておくことができずに、モーセを通して救い出そうと、神様が宣言なさったと教えられました。そしてそれは、ご自分がかつて約束なさったことを、決して忘れることなく実行なさろうとしてくださる、神様の変わることない真実を教えてくれるのだと確認しました。

聖書の神様はこうに、私たちのために約束を守り続けてくださる方です。聖書には、そんな神様が何度も繰り返してくださった約束の言葉が記録されています。

「それにもかかわらず、彼らが敵の国にいる間も、わたしは彼らを捨てず、退けず、彼らを滅ぼし尽くさず、彼らと結んだわたしの契約を破らな

い。わたしは彼らの神、主だからである。

わたしは彼らの先祖と結んだ契約を、彼らのために思い起こす。彼らはわたしがその神となるために、かつて国々の目の前でエジプトの国から導き出した者である。わたしは主である」（レビ記26:44～45）。

「わたしの僕イスラエルよ。わたしの選んだヤコブよ。わたしの愛する友アブラハムの末よ。わたしはあなたを固くとらえ／地の果て、その隅々から呼び出して言った。あなたはわたしの僕／わたしはあなたを選び、決して見捨てない。

恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える」（イザヤ書41:8～10）。

約束を果たされる神様は、約束通りにイエス様を与えてくださいました。そしてイエス様は私たちに、罪の赦しと永遠の命を、必ず約束通りに与えてくださいます。

「神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです。……わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。つまり、神はイエスを復活させて、わたしたち子孫のためにその約束を果たしてくださったのです。」（使徒言行録13:23, 32～33）

〈祈り〉

神様、約束を守り続けてくださるあなたの真実に感謝します。モーセやイスラエルの民と共にいてくださったように、私たちとどこまでも共にいてくださると約束してくださったあなたを信じます。強く雄々しく歩むことができますように、守り導いてください。



〈ねらい〉

神様の約束の確かさと、それを確信させる神様の存在と御言葉の力を覚える。

〈展開例〉

①今日はモーセが、イスラエルの人たちに神様の思いを伝える使命に召し出された話。モーセは王宮で成長した。しかし、エジプト人に虐げられるイスラエル人を助ける際にエジプト人を殺してしまう。モーセは事件が露呈するのを恐れ、エジプトからミディアンという土地に逃れ、そこで暮らしていた。そんな折、モーセは山で神様と出会う。そこで、モーセに使命が与えられる。使命とは、エジプトに戻りイスラエル人に、神様は昔の約束を覚えてイスラエルを助けるということを伝えること。また彼らをエジプトから約束していたカナンへ導くというものであった。

②これを聞いてモーセはうろたえる。エジプト人への恐怖。自分の能力の限界。イスラエルの人たちへの不信心。神様は色々な言い訳を理由にして使命を断ろうとするモーセに、それらを解決する答えをくださる。それでも不安がるモーセに、神様は私が一緒にいるから大丈夫だ、と力強い励ましを与えてくださった。

Q. 皆はどうか？ 神様から自分の生きる道を示されたとき、うろたえることはないか？ 神様を中心にした生活をつくり上げよ、という使命。すべての人に神様と生きる幸いな生き方を広めよ、というイエス様からの使命。君たちもまた神様からの使命をいただく者たちである。だが、神様の命令を聞くととき色々な言い訳を探して、「そんな力はない」「そんなことをすれば周りからひどい目にあう」「そんな生き方をしても誰も理解しないに違いない」、こんな風に使命を

放棄する心の弱さがないだろうか？

③しかし、神様は言われる、「わたしは必ずあなたと共にいる」。モーセは神様との出会いをとおして、本当に神様はおられるということを知った。そして、その神様が使命のために必要なすべてのことを解決してくださるということを示された。モーセという人は本当に心配症である。神さまの励ましがあり、それでもなお彼はうろたえる。だが、神様はとりあえず行け、と言われる。心配事は言い出せばキリがないが、神様はモーセと一緒に行って、その都度、なすべきことを教えてくださると言われた。そして、確かに彼は神様と共にエジプトのイスラエルの人々の前に出ていき、神様の約束の確かさを彼らに信じさせるに至った。

④モーセの何が、神様の約束の確かさをイスラエルに信じさせたのだろうか？ それは、一緒にいてくださる神様のリアリティー。そして、リアルに神様と一緒にいる、モーセの口をとおして語られる神様の言葉の力だった。自分が信じるにしろ、誰かに信じてもらうにしろ、神様の命令や約束がホンモノだということが確かにされるとき、必要なのは能力でも環境でもない。神様が共にいること。神様の声に聞くこと。このことだけが、無茶に思える神様の使命を実現可能にする。この二つを体の隅々にかよわせるために毎週の礼拝を神様は用意くださっている。神様を中心として生きるために、神様がそのリアリティーと確かな言葉を君たちに届けてくれるよう、神様に願いたい。

〈祈り〉

モーセと共におられた神様。あなたの使命に生きられるように、私にも同じように共にあって、あなたの声を聞かせてください。アーメン。